

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」 第 18 回 国語辞典の「土木」の現在

「土木とは」と Google 検索すると「どぼく【土木】木材・鉄材・石材などを使ってする、家屋・道路・鉄道・河川・港湾などの工事。」（『岩波国語辞典第七版』）と最初に表示される。100 年以上前の国語辞典『辭林』（1907 年 4 月、三省堂）の「ど-ぼく〔土木〕家屋の土臺・堤防・道路・鐵道・橋梁等すべて木材・鐵材・土石などを使用する工事の稱。」以来、ほとんど変わりが無い。

この『辭林』の直系の後継である『大辭林』（三省堂）の第四版が 2019 年 9 月 5 日に発売された。この『大辭林第四版』では「ど ぼく【土木】〔古く「とぼく」とも〕① 土と木。また、飾り気のないことのたとえ。→形骸（けいがい）を土木にす（「形骸」の句項目）。② 道路・橋梁（きょうりょう）・鐵道・港湾・堤防・河川・上下水道など、あらゆる産業・経済・社会等人間生活の基盤となるインフラを造り、維

持・整備してゆく活動。〔古代・中世においては「造作」などとともに建築工事の意で用いられたが、以降江戸時代まで「作事」「普請」が使われ、明治になってから再び「土木」が「建設」「建築」とともに使われるようになった〕」となつて、13 年前の『大辭林第三版』（2006 年 10 月）「〔古く「とぼく」とも〕① 土と木。② ~~土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁（きょうりょう）・鐵道・港湾・堤防・河川・上下水道などを造る建設工事の総稱。〔従来は家屋などの建築を含んだ〕~~→建築」から、画期的ともいえる大きな改訂（下線と二重取り消し線で異同を表現した）が施された。

これなら「大辭林第四版によると土木とは…」と使ってもいいのでは。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.66 コンテンツ

巻頭言	『インフラ点検のすゝめ』	岩佐 宏一	2
コラム	「インフラ 70」は、未来に向けたメッセージ	酒井 利夫	3
トピックス	スポーツボランティアについて考える	和久 昭正	6
土木と市民社会をつなぐ	産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』	狩屋 雅之	7
部門活動紹介	「土木と市民社会をつなぐ事業研究会発足」	事業化推進部門	10
会員からの投稿	床版のことがよく分かる本を出しました	吉川 良一	11
事務局通信			12